

INFORMATION

輪

vol. **75** | November
 2019

症例検討会のご案内

北九州市立医療センターでは、地域の医療従事者の方々と一緒に医療技術向上のため、下記のとおり症例検討会を実施しています。

症例検討会名・開催日	時間・場所
■ 乳腺テクニカルカンファレンス 毎月 第2・4月曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
乳腺外科・放射線科・病理診断科の医師、放射線技師、臨床検査技師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■ 呼吸器カンファレンス 毎週 火曜日開催	時間：17時～18時 場所：別館6階 講堂
呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■ 消化器カンファレンス 隔月 第3木曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
消化器内科・消化器外科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■ 周産期症例検討会 奇数月 第3水曜日開催	時間：19時～20時30分 場所：別館6階 講堂
産婦人科・小児科・小児外科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	

※日程は都合により変更・中止になる場合がございます。事前に医療連携室へご確認の上、ご参加いただければ幸いです。
 検討ご希望の症例がございましたらぜひご参加ください。皆さまの多数のご参加をお待ちしております。
 *事前の申し込みは必要ありません。(医療連携室 TEL: 093-533-8660(直通))

地域医療従事者研修会のご案内

日程	テーマ	講師
11月28日(木)	「心療内科で行っている心理療法」 ・精神分析的な心理療法について ・マインドフルネスって何?	臨床心理士 兵頭 憲二 心療内科部長 権藤 元治
12月12日(木)	「ロコモティブシンドロームについて」 「高齢者の運動機能維持について」	整形外科部長 大江 健次郎 理学療法士 古川 雄大
令和2年 1月23日(木)	「膠原病について」	内科主任部長 西坂 浩明

▶場 所：北九州市立医療センター 別館6階講堂 *事前の申し込みは必要ありません。
 ▶時 間：18時30分～(1時間～1時間30分程度) 【問い合わせ先】医療連携室 TEL.093-533-8660(直通)

市民公開講座のご案内

テーマ 心臓について知って
得するおはなし
診療科 循環器内科・心血管外科
場 所 北九州市立商工貿易会館
2階多目的ホール
日 時 11月30日(土)
受付開始：13時30分～
講 演：14時～16時
参加費 無料(事前申込不要)
【問い合わせ先】
事務局 管理課
TEL.093-541-1831(内線3107)
*事前の申し込みは必要ありません。



詩太(うーた)さん来院

認定看護師による研修の様子

院内保育所 運動会の様子

マンモグラフィー搭載巡回検診車

ピンクリボン運動



北九州市立医療センターニュース「輪」
 第75号 2019年11月28日発行

<基本理念>

わたしたちは公共的使命を自覚し
 心のこもった最高最良の医療を提供します

編集長：尼田 覚

©2019 北九州市立医療センター /
 本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為は
 ご遠慮ください。

編集後記 9月、当院に手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、ロボット手術を開始しました。ゲノムプロファイリング検査によるがんゲノム医療も始まりました。ICTによる医療情報の交換も徐々に発展してきています。数年前までずっと先の未来の話であったことがコンピューターの進化とともに急速に現実となっています。AIもどんどん医療の現場で取り入れられていくでしょう。我々の経験や技術はコンピューターの中から取り出すことが可能になってきます。研修医のころに徒弟制度において必死で先輩から教わった医療は大昔の御伽噺のようです。(尼田)

〒802-8561 北九州市小倉北区馬借2丁目1番1号 北九州市立医療センター
 TEL.093-541-1831(代表) FAX.093-533-8693
 http://www.kitakyu-cho.jp/center/

広報委員会「輪」編集委員

尼田 覚 重松宏尚 小園真吾 大津博恵 杉本優子 森崎恵美子
 高見将彦 小野達也 木村祥子 佐藤美登里 天野健司 高木良輔



HP: QRコード



FB: QRコード

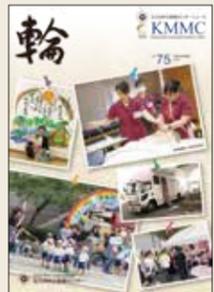
地方独立行政法人 北九州市立病院機構
北九州市立医療センター

CONTENTS

- 01 がんゲノム外来について
- 02 スポットライト／緩和ケアセンターのご案内
- 03 院内紹介／整形外科・血液内科
- 05 トピックス／2019年度 活動報告
- 06 人物クローズアップ／私の趣味はなし
- 07 認定看護師さんをご紹介!
- 08 看護の広場／放射線科外来
- 09 登録医のご紹介
- 10 医療連携室だより

INFORMATION

- 症例検討会のご案内
- 地域医療従事者研修会のご案内
- 市民公開講座のご案内



〔表紙写真について〕
医療センターでは、10月に開催されたピンクリボン運動や、認定看護師研修等を行っております。
今後も、地域の病院と連携してさらに信頼される病院を目指していきたいと思っております。



がんゲノム外来について

北九州市立医療センター 腫瘍内科
主任部長 若松 信一

がんゲノム医療の均てん化のため当院はがんゲノム中核拠点病院である九州大学と連携を取り、がんゲノム医療を提供するがんゲノム医療連携拠点病院に指定されました。医師、病理医、看護師、技師、事務職員が協力してゲノム検査に対応しています。がんゲノムパネル検査をご希望の患者さんがおられましたらがんゲノム外来にご紹介ください。

がん治療の進歩は目を見張るものがあり、最近ではがん細胞の遺伝子異常をターゲットとした個別化治療が進んできています。

従来のがん遺伝子検査は肺がんや大腸がん、悪性黒色腫などで特定医薬品の適応判断補助目的に検査が行われてきました。いわゆるコンパニオン診断と言われ、適応となる薬剤の対象遺伝子一つずつ調べる形で実施されてきました。遺伝子の検査には膨大な時間と費用が必要でしたが次世代シーケンサーの登場により複数の遺伝子異常を一度に検査することが可能となりました。

2019年6月にNCCオンコパネルシステムとFoundationOneの2つのがん遺伝子パネル検査が保険収載されました。前者は114個の遺伝子と12個の融合遺伝子、後者は309個の遺伝子と36個の融合遺伝子を一度に調べることができます。遺伝子異常が判明しても対象となる薬剤はまだ少なく治療に結びつく割合は約10%前後と言われています。また、対象となる薬剤があったとしても保険適応外の使用は認められていません。適応となる治験や患者申し出制度での治療となるなど、まだまだ問題点は多く残されています。

外来受診は予約制となっております。火曜日、金曜日の14時からになりますがご希望の患者さんがおられましたらご連絡ください。

検査の適応になるのは標準治療のない固形がん（希少がんや原発不明がん）、標準治療終了または終了見込みで、かつ検査実施後に化学療法が可能と判断された固形がんに限られています。また、特殊な検査であるためがん組織からのブロック検体、ホルマリン固定パラフィン包埋検体標本の確認も必要になります。

検査提出には患者さんの病歴、家族歴、治療歴等の情報も必要になります。詳しくは当院のホームページをご参照ください。

ご不明な点がございましたらがん相談支援センター TEL.093-541-1831 (代表) 内線6843までお問い合わせください。

ご用意いただく書類等および検査お申込みの流れについて

- (1) 紹介患者事前連絡票をご記入いただき、平日16時30分までに、主治医の先生から当院医療連携室へ送付してください。
- (2) FAXを確認しましたら、予約日時の確認および必要書類のご説明のため、主治医の先生へ折り返しお電話をさせていただきます。その後、受診までの間に病歴記載のある診療情報提供書(貴院様式)を当院医療連携室にFAXしてください。
- (3) 患者さんが当院がんゲノム外来受診時、以下の書類をお持ちいただくようお願いいたします。
 - ・診療情報提供書(がん遺伝子パネル検査用)
 - ・3年を経過しない病理検体および病理診断報告書
 - ・がん遺伝子パネル検査 家族歴調査票
 ※様式については、ホームページに掲載しております。

がんゲノム外来ホームページ / <https://www.kitakyu-cho.jp/center/info/tokushoku/gan-genom.html>



緩和ケアセンターのご案内



統括部長
西原 一善

がん対策推進基本計画「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」で、地域がん診療拠点病院の緩和ケア提供体制整備や緩和ケアセンターの機能強化が求められ、2019年1月「緩和ケアセンター」を設置しました。

緩和ケアセンターでは、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟などを有機的に統合し、早期からの緩和ケア提供体制の促進、がん看護カウンセリングの実施、スクリーニングなどの院内緩和ケアに関わる情報の分析・評価を行い、院内での緩和ケア提供体制の管理運営を強化しています。

地域がん診療連携拠点として、事例検討会や研修会、在宅への同行訪問、緩和ケア地域連携クリティカルパス『一言日記帳』の活用などを通じて、適切な緩和ケアの提供体制の構築に取り組みつつ、緊急緩和ケア病床の確保など機能を強化しています。

▶緩和ケアセンター事例検討会

地域の病院、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーションなどの地域診療従事者、および緩和ケアセンタースタッフとの協議の場として緩和ケアセンター事例検討会を毎月開催しています。積極的なご参加をお願いします。

▶緊急緩和ケア病床

緩和ケアセンター外来にかかりつけの患者さんや連携協力リストに登録されている在宅療養支援診療所等からご紹介の患者さんを対象に、日常生活動作の低下が著しく、在宅療養が困難な患者さんを対象とした緊急入院体制を整えています。

平日8時30分～17時は緩和ケアセンター医師が対応します。当院の受診歴のない患者さんについては、緩和ケアセンタージェネラルマネージャー(GM)にご連絡ください。
時間外、休日は当直医による対応となります。



緩和ケアセンター事例検討会の様子

緩和ケアセンター体制



患者さんのご紹介やご不明の点がありましたら、当院緩和ケアセンタージェネラルマネージャー太郎良までご連絡ください。
TEL.093-541-1831 内線6989

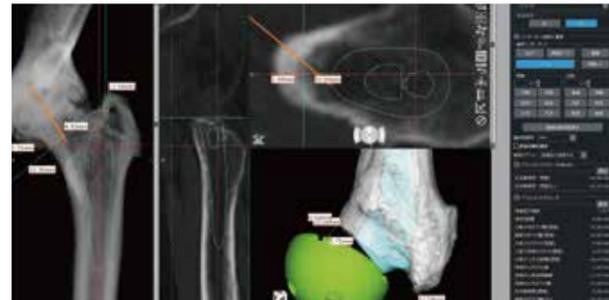
当院整形外科の診療について

4月に整形外科に赴任しました城野修と申します。北九州市立医療センターは医師になって1年目以来の四半世紀ぶりの勤務となります。小倉生まれの小倉育ち(小倉高校39期)であり、北九州市民の関節痛の軽減のために最大限の努力をしていきたいと思っています。

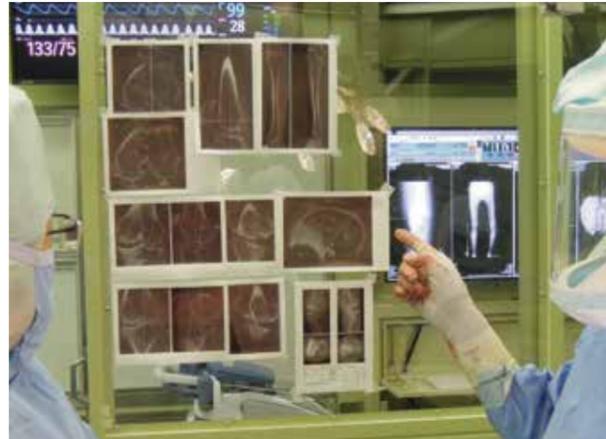
ところで膝の痛みと言えば軟骨摩耗と関連づけてしまいがちですが、近年膝や股関節の急性疼痛の原因として軟骨下骨の微細骨折や半月板後根損傷などが注目されています。これらの中には早期診断早期保存治療により重症化→手術を回避できるものもあります。段差につまずいた、バスのステップから跳び降りた、など些細なことを契機として股関節や膝関節の強い痛みを訴える患者さんに対しては、鎮痛剤で経過観察するよりも早い段階でMRI診断することが推奨されます。

現在私が行っている手術は人工膝関節全置換術および部分置換術、人工股関節置換術、膝周囲骨切り術、関節鏡視下手術(半月板縫合や前十字靭帯再建術他)などです。

あらゆる手術について言えることですが、特に人工関節手術



人工股関節3D術前計画ソフト(Zed-Hip)



人工膝関節手術風景

において術前計画を綿密に行うことはとても重要なことだと考えています。従来人工関節の術前計画は2D(単純レントゲン画像)で行われてきましたが、当科ではインプラントサイズや脚長差、オフセットなどあらゆる指標がパソコン上でシミュレーション可能な3D術前計画ソフト(Zed-Hip)を導入し、1症例ごとに綿密に術前計画し手術に臨んでいます。人工股関節手術においてはインナーマッスルである短外旋筋群や小殿筋を温存することに留意しています。筋腱温存低侵襲手術は手術視野が狭くインプラント不良設置のリスクとなるため、前述の3D術前計画がさらに重要となります。人工膝関節においても3D術前計画を行っています。もう一つ特徴を言えば当科では多くの症例においてセラミックインプラントを用いています(現在の大腿骨側インプラントの多くはコバルトクロム合金製であり金属アレルギーが問題となることがあります)。セラミックは製造コストがかかり歯科領域などでは保険適応外ですが人工関節においては金属インプラントと同価格であり、もちろん保険適応となります。人工関節の話ばかりとなりましたが関節温存手術も近年の術式変改などにより成績が向上しており当科でも積極的に取り入れています。患者一人ひとりの背景や要望を丁寧に聴いた上で適切な術式を提案しています。肩関節・スポーツ外科の西井主任部長と脊椎外科の吉兼主任部長の元、スタッフ一同力を合わせて皆さまの期待に応えられるよう一層精進いたしますので今後とも整形外科をよろしく願いいたします。



上段左から：大江医師 太田医師 筒井医師 / 下段左から：城野医師 西井主任部長 吉兼主任部長

当院血液内科の診療について

当院の血液内科では白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫を中心とした悪性疾患に加え、特発性血小板減少性紫斑病や再生不良性貧血といった良性疾患まで幅広く診療しています。

スタッフは杉尾康浩内科部長(1994年九大卒)、太田貴徳内科部長(1999年産業医大卒)、上原康史内科部長(2011年九大卒)、上野稔幸内科副部長(2014年九大卒)と私(1990年九大卒)の5人です。平日の日勤帯は毎日新患、急患を受け付けていますし、夜間・休日にも可能な限り対応しています。

私どもの診療のポリシーは「なるべく患者さん・ご家族のご希望に沿う」ことです。30年前までは白血病は不治の病でした。それが新しい抗がん剤の開発、支持療法工夫・発展、新しい移植方法の開発などで治癒が望めるようになりました。それにもかかわらず高齢に伴い高齢の患者さんが増えたため、思うように治療することが難しい患者さんが明らかに増えています。しかし、患者さんの「生きたい」という気持ちに年齢は関係ありません。私どもはそのような患者さんのご希望にいかに応えられるかを日夜考え、努力しています。

最近のトピックを一つ紹介します。従来の移植の方法には同種移植(さい帯血移植、血縁者間のHLA(ヒト白血球抗原)合致骨髄・末梢血幹細胞移植、非血縁間骨髄・末梢血幹細胞移植)や自家末梢血幹細胞移植がありました。これまで同種移植を行う際には移植片対宿主病(GVHD)を抑制するためHLAが一致していることが条件だったのですが、HLAが合っていないでも移植後3、4日にシクロホスファミド(エンドキサン)を投与することによって重症GVHDを防ぐことが可能



左手前：杉尾医師 右手前：太田医師 左奥：上原医師 右奥：上野医師



自家末梢血幹細胞移植の実際(輸血と同じ要領)

になってきました。すなわちHLA完全一致の必要性がなくなりつつあるのです。これは親子間でも兄弟間でもドナー候補が居さえすれば同種移植が可能であることを意味します。HLA一致のドナーが見つからないからといってずっと待ち続ける必要がなくなったのです。これは極めて画期的で、今後この移植法は改良を重ねながら発展していくでしょう。

ベストの方法で患者さんの病気を治癒に導くことは我々医師だけでは不可能であり、そこには多くの職種(看護師・薬剤師・歯科医師・歯科衛生士・臨床工学士・管理栄養士・理学療法士・言語聴覚士・作業療法士・臨床検査技師・診療放射線技師・臨床心理士・医療社会福祉士)の協力があってはじめて成し得るものです。

患者さん・ご家族とも、関わるスタッフともしっかりとコミュニケーションを取って「なるべく患者さん・ご家族のご希望に沿う」ことこそが、血液悪性疾患と向き合う我々血液専門医の使命であると考えています。



血液内科外部サイト

2019年度 活動報告

TOPICS トピックス

9/28^土~10/3^木

床頭台が新しくなりました!

9月28日から10月3日までに病棟内の床頭台約500台の入れ替えを行いました。新しい床頭台は、フットライトを搭載するなど機能が向上し、今まで以上に入院患者さんにとって快適に過ごしてもらえる環境を整えました。



10/5^土

院内保育所にて運動会を行いました!

毎年院内保育所で開催される運動会を行いました。当日は、天気も良く親子一緒に運動会を楽しむことができました。



10/24^木

ベビーコール訓練の実施

10月24日にベビーコール(連れ去り)訓練を行いました。病棟でベビー連れ去りが発生した状況を想定し、対策本部運用訓練、建物出入口における退館チェック訓練、各病棟・検査室等での状況確認・情報伝達訓練を行いました。発生時の各部署の行動を再確認、周知徹底を行い、患者さんに安心して入院できる病院づくりに努めてまいります。



10/27^日 ピンクリボン運動

10月27日に開催されました「むすぼうや!ピンクリボン」に当院から放射線技術課が参加しました。当日は、乳房模型を使った健診体験コーナーや、無料乳がん検診を行いました。ギラヴァンツ北九州のホームゲーム日ということもあり、多くの方が足を止め参加いただき、乳がんについて知っていただく機会になりました。



患者支援センター

看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、歯科などの多職種スタッフが連携して対応し、検査や手術・入院生活等について理解を深めていただき、退院後の生活を含め、安心して医療を受けていただくことを目的としています。



●詳しくは、ホームページをご覧ください。
<https://www.kitakyu-cho.jp/center/for-patient/kanjasien/>

CLOSE UP!

人物

クロージアアップ—私の趣味のはなし

管理課
高橋 未菜美



皆さんは、「殺陣」ということばをご存知ですか? 「殺陣」とは、時代劇などでよく見られる、刀等を用いたアクションのことです。

私は小さな頃から時代劇をよく見ていて、主人公が相手を切り伏せていく「殺陣」のシーンが大好きでした。また、父が剣道をしていたこともあり、いつか武道を習ってみたいと思っていました。

私は中学校に入ってからすぐに剣道を始め、高校までの6年間で二段まで段位を取得することができました。

大学時代は剣道から離れていたのですが、数年前友人の勧めで出会ったのが、殺陣などの剣術を教えている「総合武術真延流」という武道団体でした。

初めて稽古に参加したときは、剣道のようなスポーツとしての武道とは異なる動きが多く、とても衝撃を受けたことを覚えています。

稽古の内容は、袈裟斬り、逆袈裟斬り、胴薙ぎ払いなどの基本の振り方から、攻撃の受け方、斬られ方までさまざまです。



さまざまな地域の町おこしイベントなどで殺陣のパフォーマンスを行なっている様子

今は週に1回、日々のストレス発散と運動を兼ねて仕事終わりに稽古に通っています。

また、当該団体では、日々の稽古以外にも地域の町おこしイベントなどで殺陣のパフォーマンスも行っており、今年も5月の門司港海峽フェスタや9月に佐賀で行われたばた餅武者行列などにもメンバーと一緒に参加しました。

パフォーマンスに参加する際は、その時代に合わせて甲冑や着物・袴等を着用したり、刀身が木でできて

いる竹光というイベント用の小道具を使って演舞をしたりと雰囲気を楽しんでいます。

コスプレが好きな人や刀剣・和装などが好きな人は楽しめると思います!最近のパフォーマンス映像はYouTubeにも投稿されていますので、ご覧ください。

11月も、朝倉市の秋月鎧揃えにて当該団体のパフォーマーとして舞台に立たせていただきました。興味のある方は練習やイベントに足を運んでいただくと嬉しいです。

新しく認定看護師が増えました! (合計22名)

PROFILE

痛みを和らげ、その人らしく生きることを支える



がん性疼痛看護認定看護師
佐々木 雅子

がんと診断された患者さんは、身体的な痛みだけではなく、精神的・社会的・スピリチュアルな面で苦痛を抱えています。

がん性疼痛看護認定看護師の役割は、患者さんの全体像を捉え、個別に応じたケアを実践すること、痛みを緩和する効果的な方法を考え、薬物療法の適切な使用と評価を行うことです。

現在、緩和ケアセンター専従看護師として、外来や緩和ケアチームで、患者さんやご家族一人ひとりの痛みを理解し、思いに寄り添いながら、その人らしい生活が送れるように支援を行っています。

また、病期を問わず、いつでもどこでも緩和医療が受けられるような体制を、多職種と協力しながら構築していきたいと考えています。

PROFILE

愛護的なスキンケアで患者さんの皮膚を守りたい



皮膚・排泄ケア認定看護師
田上 陽子

皮膚・排泄ケア認定看護師は、褥瘡(創傷)・ストーマ・失禁ケアなどの3つの領域に関するケアの実践、指導、相談を行っています。

私は新生児集中治療室で13年間勤務し、脆弱な皮膚の超低出生体重児の看護をする中で、より質の高い皮膚ケアの熟知を目指し新生児だけに留まらず、成人へも質の高い皮膚ケアの提供がしたいと思い、皮膚・排泄ケア認定看護師を取得しました。

当院には私を含め3人の皮膚・排泄ケア認定看護師が在籍しており、院内外で他職種と協働して褥瘡(創傷)対策、ストーマ・失禁ケアの充実を図っています。今後も皮膚・排泄ケアを通して、患者さんやご家族に寄り添い、生活の質を高められるように心掛けていきたいと思っています。

PROFILE

住み慣れた地域で自分らしく生活するために



認知症看護認定看護師
草場 慶江

認知機能の低下している患者さんは、入院などによる環境の変化で混乱を生じやすくなります。私たちはその混乱を最小限に抑えて、心地の良い環境を作り認知機能を維持できる介入が必要となります。そのためには、ご家族や生活している地域での患者さんの情報が必要不可欠となります。

入院時はその情報を基に個々に合わせたケアを行い、有効なケアを退院後も継続できるように地域との連携が必要です。そうすることで、住み慣れた地域での生活をより長く送ることが可能になると考えています。

認知機能が低下しても、自分らしさは失われません。患者さんの持てる力を活かし、いつまでも自分らしく生活できるように地域に根ざした認知症看護を行っていききたいと思っています。

～繋がり大切に～



放射線科外来 看護師長 永井 文恵

看護部放射線科外来は、14名の看護師が勤務し、放射線に関わる7つの部署(放射線治療部・CT・MRI・RI・透視室・心血管造影室・生理検査室)の治療・検査に携わる看護業務を担っています。

治療部では、がん放射線療法看護認定看護師が中心となり、意思決定支援や有害事象のケアを行い、患者さんの思いに寄り添いながら個々の生活スタイルに合ったセルフケア支援を行っています。

CT・MRIは毎日フル稼働し1日約130件の検査を行っています。CT室では、スムーズな検査と造影剤副作用に迅速に対応できるようにしています。今年度は、MRI室と連携し、急変時対応シュミレーション研修も行いました。

透視室・心血管造影室では、より安全性・専門性・技術力を高めるために、シュミレーション→実践→リフレクションを習慣化しています。

放射線科外来は、医師・放射線技師・クラーク・看護師が連携し、全日本バレーボールのようにチームの力で繋がっています。患者さんが安全・安楽・安心して検査・治療を受けられることをゴールとし、ときにはそれぞれの役割を超えてボールを繋いでいます。患者さんとも一見ではなく繋がっています。診断前に不安を抱えての検査・病名告知後の精査・手術後の放射線治療・退院後再評価の検査など同じ患者さんに何度も触れ合います。患者さんと接する時間は短いですが、これからもその時々での患者さんの思いや症状にあわせた心温かい看護を提供できるように努力してまいります。



CT室



心血管造影室



放射線部(治療)

Registered physician Information



登録医のご紹介

Clinic
1

あだち宇野内科クリニック

INFORMATION

所在地：小倉北区足立1丁目2番23号 院長：宇野 卓也
TEL：093-551-7788 診療科目：内科、消化器科、
FAX：093-551-7745 呼吸器科、循環器科



院長
宇野 卓也



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	○
13:30~18:30	○	○	○	○	○	○	×

※土曜日は15:00まで、日曜日は12:00まで/祝祭日は休診



アピールポイント

【一般診療】インフルエンザなどの急性疾患から、高血圧や糖尿病などの慢性疾患、認知症など幅広くさまざまな疾患の診断と治療に対応しています。
【検査】上部・下部消化管内視鏡検査、血液検査、エコー、X線など種々の検査機器により早期発見を目指します。
【健診】事業所健診・特定健診・生活習慣病健診・がん検診・人間ドックを実施しています。

市立医療センターへの一言

【医療連携】患者さんにとって最適な専門医・最適な治療環境・最適な医療機器のある市立医療センターと迅速に連携して最善の医療が提供できるよう医療連携に力を入れています。

Clinic
2

峯崎内科クリニック

INFORMATION

所在地：八幡東区槻田2丁目2番13号 院長：峯崎 智久
TEL：093-652-7222 診療科目：内科、糖尿病内科、
FAX：093-654-1830 腎臓内科



院長
峯崎 智久



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	×
14:00~18:00	○	○	○	○	○	×	×

※土曜日は12:30まで



アピールポイント

総合内科専門医として内科診療に加え、糖尿病専門医として糖尿病をはじめとした生活習慣病の治療に特に力を入れています。当院では糖尿病予備群の段階から、患者さんそれぞれの生活に合わせた無理のない食事運動指導を行い、合併症を起こさない治療を目指しています。血糖値が心配な患者さんはいつでもご相談ください。

市立医療センターへの一言

高度な検査・医療が可能である市立医療センターでの治療を希望される患者さんは多く、いつもご紹介に際して速やかに対応いただきありがとうございます。

医療連携室だより

平素より、当院の地域医療連携推進につきまして、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。さて、医療連携室では2017年度より訪問看護ステーション連絡会議を行い、事例検討および課題解決等の意見交換を行い連携の強化に努めてきました。医師や認定看護師、外来看護師、退院支援リンクナースなど参加しさらなる後方支援の強化に向け、切れ目のない連携を図るために今年度より「訪問看護ステーションの連携の会」を開催する運びとなりました。

第1回は10月29日、訪問看護ステーション11施設15名、院内医師3名・看護部より15名の参加をいただき2部構成で会を行いました。1部では当院の退院支援の実績、認定看護師の同行訪問活動、連携ネット北九州の取り組みについて報告をさせていただきました。また小倉医師会訪問看護ステーション管理者加藤ひとみさんより「住み慣れたわが家で自分らしく過ごすために」というテーマで訪問看護師の係わりについてお話をいただきました。2部では今後の連携強化に向けての意見交換を行いました。外来看護師と訪問看護師の連携や情報共有の必要性、病棟看護師の意思決定支援が在宅療養に繋がっているか、医療的ケア児の連携についてなどディスカッションを行うことができました。

今後もこの連携の会を通し関心を広げ、退院支援から在宅療養支援へケアを継続し、意思決定を地域で支えていくために病院も在宅のチームの一員となり、取り組んでいきたいと思っております。

地域医療連携推進担当係長 播磨 由美



意見交換会の様子

医療連携を基本に業務内容の充実を図り、地域医療機関、患者さん、職員からも安心して頼りにされるよう取り組んでまいります。

【医療連携室】

TEL 093-533-8660(直通) FAX 093-533-8718 <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>
E-mail: byou-iryuu-renkei@kitakyu-cho.jp ※患者さんのご紹介は、E-mailでは受付けておりません。